

フィガロン乳剤散布による温州ミカンの摘果労力の軽減効果

[要約] 着花過多樹では、フィガロン乳剤2000倍の全面散布により、摘果労力を30%軽減できる。また、1000倍の部分散布により、粗摘果労力を軽減できる。

長崎県果樹試験場・常緑果樹科	専門	栽培	対象	果樹類	分類	指導
----------------	----	----	----	-----	----	----

平成7年度長崎県果樹試験場業務報告

[背景・ねらい]

温州ミカンの着花過多樹で摘果労力の軽減を図るため、高接ぎ3年目（中間台木41年生）の‘岩崎早生’を用いて、フィガロン乳剤の摘果効果を検討した。

[成果の内容・特徴]

- ① フィガロン乳剤の1000倍，2000倍散布により葉果比が高くなる（表1）。
- ② 同じ収穫果数及び収量に対する摘果時間は，フィガロン乳剤全面散布区は，対照区より30%以上少なく，部分散布区でもやや少ない（表2）。
- ③ 摘果果実の割合は，フィガロン乳剤全面散布区は，対照区より40%以上少なく，部分散布区でもやや少ない（表2）。
- ④ フィガロン乳剤の部分散布によって，粗摘果時間の割合が減少する（表2）。

[成果の活用面・留意点]

フィガロン乳剤は気象条件や樹体条件によって，効果にふれが出ることがある。

[具体的データ]

表1 フィガロン乳剤散布と葉果比

散布濃度	散布時期	散布方法	6.19		7.14		備考
			散布	無散布	散布	無散布	
1000倍	6月6日	部分散布 ²	14.9	6.2	28.1	11.6	満開日 (5.12)
2000倍	6月19日	全面散布	-	5.5	16.0	-	
対照	-	-	-	5.8	-	10.8	

² 下垂枝を中心とした部分散布（赤道部より上部は無散布）

表2 フィガロン乳剤散布と摘果時間及び摘果数

散布濃度	収量 (kg/本)	果数 (個/本)	1果平均重 (g)	摘果時間1 ²	摘果時間2 ³	摘果数 ⁴
				(分/100個)	(分/10kg)	割合
1000倍	184	1468	125.6	15.0	11.9	2.3
2000倍	167	1743	96.0	10.3	10.8	1.4
対照	185	1713	107.8	16.8	15.6	2.6

² 収穫果数100個に対する摘果時間

³ 収量10kgに対する摘果時間

⁴ 収穫果数に対する摘果果数

表3 フィガロン乳剤散布と時期別摘果時間及び摘果数割合

散布濃度	6月下旬		7月中旬		8月上旬	
	摘果時間 ² (%)	摘果数 ³ (%)	摘果時間 ² (%)	摘果数 ³ (%)	摘果時間 ² (%)	摘果数 ³ (%)
1000倍	49.3	75.2	29.1	11.1	21.6	13.2
2000倍	0.0	0.0	65.0	75.3	35.0	24.7
対照	63.0	71.7	20.3	15.1	16.8	13.2

² 全摘果時間に対する各摘果時期別割合

³ 全摘果数に対する各摘果時期別割合

[その他]

研究課題名：傾斜地カンキツ園における軽労働・省力機械化生産体系の構築

予算区分：地域基幹（国庫）

研究期間：平成7年度（平成6年～10年）

研究担当者：濱口壽幸，岸野 功

発表論文等：平成7年度 長崎県果樹試験場業務報告。

残された問題点：フィガロン乳剤の摘果効果をより高める技術確立が必要である。